

こんな長ったらしい名称の会の設立を提唱し、根室地方の小・中・高校の教師によびかけをはじめたのは、昭和四十六年十一月で、明けて四十七年の春早々から根室の山野を駆けめぐりながら同好の仲間をふやし、四十八年二月に設立総会を開いて正式に発足して以来いま、三年目に入ろうとしています。

根室自然保護教育研究会の これまでとこれから

三 浦 二 郎



然のありようを、それから教師という職業を通して自然と人間生活とのかかわり合いのありようをずっと考え続けてきたけれど、一人ではどうにも力足らずです。学校教育の中に自然保護の教育計画や実践を正當に位置づけさせるには、多くの仲間と手を結ばねばならないと思っただけです。ですから、発想の出発点は各地の「自然を守る会」などは若干ニュアンスがちがうわけです。

それはそれとして、根室管内に入ってから（前任地は釧路管内）たった五年で、会設立の提唱をするなどおこがましいことを考え出したのは、根室管内に来てからどうも附におちないことがあまりにも多かったのです。概括的にいえば、根室の人達は（教師を含めて）、恵まれた自然の中にどっぷりつかって、その自然の美しさ、すばらしさ、尊さに気づいていないのではないか、ということでは

そもそもこういつた会をつくろうと考へはじめたのは、その頃から高度経済成長のひずみとしての自然破壊が問題となつて、自然保護の気運がようやく高まつてきたことにうまく便乗したというムード的なこともありますが、師範学校の生徒時代から「日本野鳥の会」に入会して、中西悟堂先生始め先達の諸先生方のお考へに強く影響を受けて、野鳥を通して自

そういう視点で根室の事情を見直してみますと、いろいろおかしなことが目につきはじめたのです。たくさんありますが、その一つの事例をあげてみますと、一九七二年日本鳥学会誌に発表された高野伸二・森岡弘文両氏による「北海道で発見したアカアシシギの繁殖」(鳥、第二巻、第九一、九二号)の発見の舞台は、根室管内野付半島だったのですが、地元の人は全くそれに気づいていなかったということ。負け惜しみをいうわけではありませんが、私はずっと野鳥に親しんでは来ましたが、野鳥の巣卵については自分からは一切見つけようとしていない観察態度を依怙地なまでにとりつけておりますから、高野・森岡両氏のようなすぐれた研究者が、それを明らかにしたことについては、大いに有難いことだと思っております。

また、野付半島そのものについては、その当時自分だけ行くまいと心にきめておりましたから、その発見舞台が野付半島(その後、風蓮海岸でも繁殖地になっていることは確実であることを観察できましたが)であれば、私がそれを発見する機会はなかったわけでもあります。というのは、トドワラが有名観光地になりかけていて、マイカー族が車を乗り入れ

るため、その一帯の植生が荒されてきたということや、トドワラの景観を構成する貴重な枯木群の枝を折って焚火をして酒盛りをしたグループがあったということが伝えられて、どうもそういう俗化しはじめたところに自分も加わって自然破壊に手をかすことになることはしたくなかったからです(四十八年にトドワラ入口に車止めゲートが出来てからはかなり足繁くシギ・チドリ類やタンチョウの調査に通いましたが)。

さて、このアカアシシギの繁殖についての確認には余談がついて、前記二氏にとっては大発見であったでしょうが、地元の人に聞いたところ、地元の漁民の人達は「あの鳥の卵ならいまままで何回もゆでて食べたことがある」と語ったので呆然としたということ。...

先日、井上元則先生が来根されて、地の数名に集まってもらって、根室の野鳥についての情報を聴取される会が開かれたのですが、席上、コタガンについては「そんな珍しいガンではなく、渡来時期にはやたらに多く、しかも食ってもうまくないということなので、ガン類がまだ狩猟鳥であった時でも誰も射とうとしなかったものだ」という話が鳥獣保護員

(猟友会)から出されて、井上先生も半信半疑の顔をされた場面がありました。

ことほど左様に、根室の自然の中には地元の人が何とも思っていないことでも、学術的には貴重な事象がまだまだたくさんあるようなのです。それはなんといっても、根室地方には大学・博物館等の研究機関がないこと、科学者・研究者も本当に根室の土に根づいて研究に取り組む人がほとんどいないということが、本当に大切にしなければならぬ自然の姿を明らかにできない大きなネックになっているように思えるのです。私も小中・高校の教師では、調査研究ということになると力が足りないと思いますが、研究者に情報を提供する程度のことではきるのではないかということが、この会設立提唱の大きなきっかけの一つになっているのです。

そしてこの二年間、会員仲間と一緒に根室の山野を歩き廻ることを続けて参りました。犬も歩けば棒にあたるのと一緒におり、行く先々で何かかにかすばらしものを発見したり、逆に無茶な破壊のつめ跡を見つけて憤慨したりしてきました。そしてそれはそれなりに一つ一つの成果を挙げて参りましたし、会報などで

それを広めることもやってきましたし、行政などに働きかけることもいくつかやってきました。

しかし、教師会員だけで自然観察会をするだけでは会の設立趣旨からいっても不十分ではないかと反省しております。ある会員が生徒を連れて西別岳に登り、掘り返され、よい株だけを盗んだあとと投げすてられてあったガンコウランやエゾツツジなどを埋め直してきたというような実地活動は、会のこれからの活動の中に活かしていくべきことではないかと思うのです。

：

自然保護の心は、なんといっても自然の美しさ、すばらしさに接してそれに感動するところに、はじめて育っていくものでしょう。会員の大人だけがそういう美しさを見ているだけでは、もったいないような根室の自然です。美しさの残っている根室の山野を、次代をになつてくれる子ども達を誘いこんで一緒に自然の中を歩きまわる活動へと、これからは幅をひろげていこうと考えているところです。そういう活動のあり方について、理論的にも方法的にもご教示頂ければ幸いと存じます。

(別海町光道小・中学校)